

PEAKS

Leaders' Forum on  
Promoting the Evolution of Academia for Knowledge Society

# 大学支援フォーラムPEAKS 令和8年度以降の取組について

2026年2月27日PEAKS全体会合  
事前共有資料

- 令和7年度PEAKS全体会合では、PEAKS構成員および代理人の皆様より、1人1分以内で、**以下の内容についてご意見をいただきたい。**
- いただいたご意見は、令和8年度以降のPEAKSの活動に活かす予定。

## 背景

- これまでPEAKSは令和元年の設立時に設定したビジョンを基に活動し、国際卓越研究大学制度の検討に寄与するなど、一定の成果を出してきた。
- 今後のPEAKSの活動については、「新技術立国」の実現に向けて、第7期科学技術・イノベーション基本計画の方向性等も踏まえ、さらに検討する必要がある。

## ご意見をいただきたい点

- 大学支援フォーラムPEAKSで、今後主体的に取り組んでいくべきテーマは何か**
  - **PEAKSの特徴・強み**を踏まえ、ご意見・ご提案をいただきたい
  - ご参考：事務局案 (P.2)

## PEAKSのこれまでの活動(実績)

### 活動形態

- WG活動 例) 産学人材流動WG  
産学官の有識者による、大学のマネジメント改革等に向けた政策提言
- プラットフォーム活動 例) 博士人材PF  
博士人材の活躍促進に向けた具体的な取組創出に向けた、現場レベルの議論・ネットワーク形成
- 経営層育成 例) イェール大学プログラム  
大学等の次期経営層の育成とグローバルなネットワーク形成

## 今後のPEAKSの活動内容(案)

### 活動形態

- WG活動
  - ・各省による政策方針を、より尖ったものにするため、PEAKS構成員を中心とする産学官が集まり議論
  - ・テーマにあわせて、関連省庁を巻き込み議論
- プラットフォーム活動
  - ・上記WGでの議論を、試行実施し、先行事例を創出
  - ・立場・所属を超えた現場目線での課題の洗い出し・横展開
- 経営層育成
  - ・大学等の次期経営層の育成の在り方検討
  - ・ネットワーク活用

### テーマ(案)

#### 【総論】

- 科学とビジネスの近接化の時代において、「新技術立国」の実現に向けて、**産学(官)が求められる役割**(の変化)への対応
- 科学技術研究における競争力の強化

#### 【知の社会実装】

- 従来の組織ベースを超えた、**継続的な共同研究の推進**
- 大学シーズの戦略的活用（特許、SU創出等）**

#### 【科学技術・イノベーションを支える人材】

- 産学官連携による専門人材の育成（大学の研究シーズと社会実装を繋ぐ人材の育成）
- 大学と産業界の**人材流動性強化**（研究者、技術者、経営や財務の専門人材等）
- 大学経営人材の育成

#### 【イノベーションの源泉である大学の組織・ガバナンス】

- 大学で学外連携・リソース配分・資金運用等を戦略的に実施するために必要なガバナンス
- 大学経営人材や、財務等の専門人材の全国的プール化・流動性強化**
- 経済安全保障（研究セキュリティ等）**への対応

・産学と関連府省庁が横断して議論が可能  
・現場レベルの議論も踏まえ政策提言が可能  
という、**PEAKSの特徴・強み**を活かしつつ今後の活動を検討

○「統合イノベーション戦略（平成30年6月15日閣議決定）」を踏まえ、下記の目的達成に向け、産業界、大学等、政府関係者から成る「**大学支援フォーラムPEAKS\***」を令和元年度に創設（内閣府の委託事業として実施）。

- イノベーション創出につながる**好事例を産学関係者で共有**し、産学ともに横展開を進めていく。
- 改革を進めるために現場が必要とする**規制緩和等の政策を関係府省に提案**し、制度改革につなげる。
- 次世代の研究大学の**経営層を育成**する。

○PEAKSは、令和2年4月にビジョンを策定。

\* Leaders' Forum on Promoting the Evolution of Academia for Knowledge Society

## PEAKSの目指すビジョン

（令和2年4月策定）

「世界で最もイノベーションに適した国」を目指して、大学を使い尽くす。

- アカデミアでは、**特定分野において世界ナンバーワンの研究拠点・教育拠点**を形成し、**全国各地で多数の尖った特色あるピーク**を展開する。これらの拠点群が、研究と教育のエクセレンスを競い合い、**層の厚いシステムを構築**する。
- 産業界は、**大学が持つ潜在的かつ膨大なシーズやアイデアを探究し尽くして、産学の新たな研究開発や人材育成への投資を拡大**しつつ、社会を変革するイノベーションを生み出し続ける。
- アカデミアと産業界は、**多様な人材の知が融合する研究拠点**の中で、学生に対して幅広い経験を積む機会を与え、**輩出した優秀な博士人材をアカデミアと産業界が奪い合う状態**になる。
- 政府は、**イノベーションで世界をリードするため、戦略的な資源配分を行う**とともに、**大学の経営戦略を支援するために必要な制度や規制の見直し**を迅速に行う。

**産学官の知を結集**し、少子高齢化などの課題先進国である日本が、**イノベーションによって、経済成長と社会の持続可能性**を両立しつつ**新たなライフスタイルと価値**を生み出す姿を世界に示す。

○現在の体制・主な活動内容は以下の通り。

## 《体制》 ※2026年1月時点

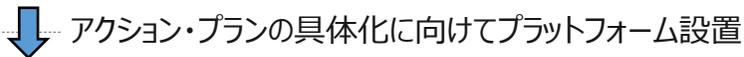


座長：宮園 浩平 総合科学技術・イノベーション会議 常勤議員  
 事務局：内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局

## 《2025年度の主な活動》

ワーキンググループ/ プラットフォーム	✓ 大学改革や博士人材の活躍に向けた議論/政策提言
実証事業	✓ 伴走支援を通し作成した日本型大学成長モデルの横展開
イェール大学 プログラム	✓ 大学経営人材の育成 ✓ 海外トップ大学とのネットワーキング
全体会合	✓ 活動成果を横展開する場 ✓ 構成員のネットワーキングの場

年度	活動内容	成果
R4~5	<div style="border: 1px solid purple; padding: 5px; display: inline-block;"><b>日本型大学成長モデルアドバイザーWG</b></div> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学の持つ「知」を適切に価値づけ、新しい資金の流れを生み出す日本型大学成長モデルの構築</li> <li>「大学経営人材」の確保・育成方向の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>WG委員/外部専門家がJ-PEAKSアドバイザーに就任する等、<b>J-PEAKS伴走支援に貢献</b></li> <li>「<b>日本型大学成長モデルアドバイザーWG最終まとめ</b>」を策定（令和8年2月）</li> </ul>
R4~6	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;"><b>PEAKS実証事業</b></div> <ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の大学の成長モデルの構築を目指し、大学の「知」のアセットの収益化に向けて、各採択大学が事業計画を策定</li> <li>外部専門家等が伴走支援を行い、外部専門家を発掘・プール化</li> </ul>	
R5~6	<div style="border: 1px solid purple; padding: 5px; display: inline-block;"><b>産学人材流動WG</b></div> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業界と大学双方における博士人材の相互理解を深めるとともに、博士人材の活躍促進に係る具体的アクションを検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「<b>産学人材流動WGアクション・プラン</b>」を策定（令和6年7月）</li> </ul>
R6~	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;"><b>博士人材の活躍に向けた産学官連携プラットフォーム</b></div> <ul style="list-style-type: none"> <li>博士人材の産業界での活躍に向けた先行事例の創出、ネットワーク形成等を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで、産学官より計<b>200名以上</b>が参加</li> <li>「<b>博士人材の活躍に向けた産学官連携プラットフォーム第I期取りまとめ</b>」を策定（令和8年2月）</li> </ul>
R1~	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block;"><b>国際戦略・経営人材育成</b></div> <ul style="list-style-type: none"> <li>イェール大学とのリーダーシッププログラム開発を通じた次世代経営層の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで、産学官より<b>160名程度</b>が参加</li> </ul>



産業界17名・大学等関係者50名・政府関係者8名。

【座長】

宮園 浩平 総合科学技術・イノベーション会議 常勤議員

【産業界】

稲葉 善治 ファナック株式会社 特別顧問  
 井上 礼之 ダイキン工業株式会社 名誉会長 兼 グローバルグループ代表執行役員  
 岩沙 弘道 三井不動産株式会社 相談役  
 梶原 ゆみ子 総合科学技術・イノベーション会議 非常勤議員  
 佐藤 康博 総合科学技術・イノベーション会議 非常勤議員、株式会社みずほフィナンシャルグループ 特別顧問  
 鈴木 純 総合科学技術・イノベーション会議 非常勤議員、帝人株式会社 シニア・アドバイザー  
 菅 裕明 総合科学技術・イノベーション会議 非常勤議員、東京大学教授、パップソリウム社創業者、ミバロ社取締役  
 高橋 祥子 TAZ Inc.代表取締役社長、株式会社ジーンクエスト取締役ファウンダー  
 筒井 義信 日本経済団体連合会 会長、日本生命保険 特別顧問  
 永山 治 中外製薬株式会社 名誉会長  
 西原 基夫 日本電気株式会社 執行役 Corporate EVP 兼 CTO  
 藤本 利夫 武田薬品工業、アイパークインスティテュート株式会社 代表取締役社長  
 益戸 正樹 UiPath株式会社 特別顧問  
 宮川 潤一 ソフトバンク株式会社 代表取締役 社長執行役員 兼 CEO  
 森本 典繁 日本アイ・ビー・エム株式会社 取締役副社長執行役員 最高技術責任者  
 山本 佳世子 国立大学法人東京科学大学 理事(非常勤) (元 日刊工業新聞社論説委員)  
 山本 貴史 東京大学エクステンション株式会社 代表取締役社長

【大学・国研】

石川 正俊 学校法人東京理科大学 学長  
 石川 義弘 公立大学法人横浜市立大学 学長  
 石崎 泰樹 国立大学法人群馬大学 学長  
 石橋 達朗 国立大学法人九州大学 総長  
 伊藤 藤公 学校法人慶應義塾 塾長  
 伊藤 正明 国立大学法人三重大学 学長  
 岩田 伸生 学校法人藤田学園藤田医科大学 学長  
 受田 浩之 国立大学法人高知大学 学長  
 牛田 辰尚 国立大学法人新潟大学 学長  
 大竹 尚寛 国立大学法人東京科学大学 理事長  
 大野 英行 国立大学法人茨城大学 学長  
 大野 隆哉 国立大学法人東北大学 総長特別顧問、経済産業省特別顧問  
 大橋 久雄 東京都立大学法人 東京都立大学 学長  
 小川 智光 国立大学法人熊本大学 学長  
 越智 誠夫 国立大学法人広島大学 学長  
 熊ノ郷 淳 国立大学法人名古屋工業大学 学長  
 国立大学法人大阪大学 総長

黒澤 昌子 国立大学法人政策研究大学院大学 理事、副学長、科学技術イノベーション政策研究センター長  
 小谷 元弘 国立大学法人東北大学 理事 (非常勤)  
 小櫻 山 公立大学法人大阪公立大学 学長  
 塩山 智幸 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 学長  
 高田 橋中 国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学 総長  
 田中 澤野 学校法人関西大学 関西大学 学長  
 谷野 幸俊 学校法人早稲田大学 総長  
 田中 野葉 国立大学法人山口大学 学長  
 千野 裕稔 国立大学法人電気通信大学 学長  
 富内 永木 国立大学法人東京農工大学 学長  
 内谷 仲和 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学 学長  
 村宗 一 国立大学法人東北大学 総長  
 永田 恭安 国立大学法人福井大学 学長  
 須山 保和 学校法人立命館 立命館大学 学長  
 橋本 和山 国立大学法人山梨大学 学長  
 長谷 田真 国立大学法人信州大学 学長  
 福藤 井輝 国立大学法人筑波大学 学長  
 藤原 正清 国立大学法人長崎大学 学長  
 寶松 三三 国立大学法人岡山大学 学長  
 松尾 昌博 国立研究開発法人科学技術振興機構 理事長  
 谷 長 国立大学法人北海道国立大学機構 理事長  
 三三 昌博 国立大学法人弘前大学 学長  
 谷 昌博 国立大学法人東京大学 総長  
 三三 昌博 国立大学法人神户大学 学長  
 三三 昌博 国立大学法人北海道大学 総長  
 三三 昌博 国立大学東海国立大学機構 機構長  
 三三 昌博 学校法人東京女子医科大学 学長  
 三三 昌博 国立大学法人九州工業大学 学長  
 三三 昌博 国立大学法人京都大学 総長  
 三三 昌博 国立大学法人千葉大学 学長  
 三三 昌博 学校法人立命館 立命館アジア太平洋大学 学長  
 三三 昌博 国立大学法人豊橋技術科学大学 学長  
 三三 昌博 国立大学法人金沢大学 学長

【関係府省】

上山 隆大 内閣府 本府参与 (科学技術・イノベーション担当)  
 濱野 幸一 内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局長  
 井上 諭一 内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 統括官  
 合田 哲雄 文部科学省 高等教育局長  
 西條 正明 文部科学省 科学技術・学術政策局長  
 菊川 人吾 経済産業省 イノベーション・環境局長

<オブザーバー>

神田 真人 元 OECDコーポレートガバナンス委員会議長

- 「科学技術・イノベーション基本計画」は、「科学技術・イノベーション基本法」に基づき、5年ごとに策定するもの。
- **第7期「基本計画」(2026～2030年度)**については、CSTIに設置した「基本計画専門調査会」において議論・検討。
- 所要の手続きを経て、**2026年3月末までにCSTI答申・閣議決定を予定。**

## 科学技術・イノベーションを巡る現状

- ◆ 我が国の基礎研究力の低下  
トップレベル論文数の国別ランキング下落  
(4位(2001-2003年) → 13位(2021年-2023年))
- ◆ 科学とビジネスの近接化  
科学からビジネスに至るまでのスピードの加速化、グローバルな「一人勝ち」企業の出現
- ◆ テクノロジーを巡る国家間の競争激化  
米中や欧州、韓国などが研究開発投資を増大
- ◆ 安全保障環境の変化

科学技術・イノベーション推進システムの刷新

## 対応の方向性

- ① 科学の再興（基礎研究力の強化・人材育成）
- ② 技術領域の戦略的重点化
- ③ 国家安全保障との有機的連携
- ④ イノベーション・エコシステムの高度化
- ⑤ 戦略的科学技術外交の推進
- ⑥ 推進体制・ガバナンスの改革

科学技術力は、国家の経済と安全保障の基盤

## ① 科学の再興 (基礎研究力の強化・人材育成)

「我が国全体の研究活動の行動変革」、「世界をリードする研究大学群等の実現に向けた変革」、「大学・国研への投資の抜本的拡充」(様々な府省庁・民間からの基礎研究への投資)を推進。

### □ 新たな研究領域への挑戦の抜本的な拡充

- ✓ 科研費等の抜本的拡充：**2倍(挑戦的研究課題数)**  
※ 6,500件程度 (2024年度 研究課題数)

### □ 戦略的な国際頭脳循環

- ✓ 日本人研究者の海外派遣の拡大：**3万人(5年間累計)**  
※ 3,623人 (2023長期派遣研究者)
- ✓ 世界トップレベルの魅力ある研究環境の構築

### □ 優れた科学技術人材の継続的な育成・輩出

- ✓ 博士号取得者数の拡大：**2万人**  
※ 15,564人 (2020取得者実績)
- ✓ 研究支援人材の確保

### □ 時代に即した研究環境の構築

- ✓ AI for Science による科学研究の革新
- ✓ 研究設備の共用化の促進：**30%**  
※ 20%程度 (現状)

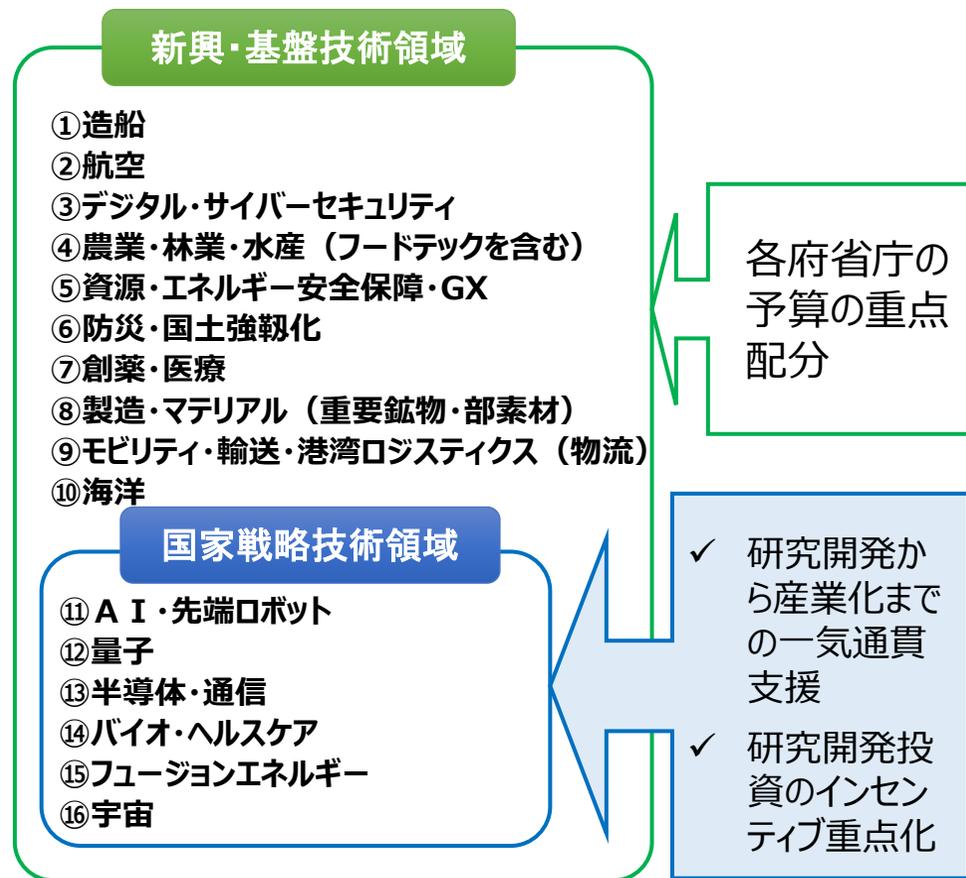
### □ 世界をリードする研究大学群の実現 **20大学以上**

- ✓ 研究力強化に向けた経営戦略の構築・実践等、ガバナンス改革の推進
- ✓ 「国際卓越研究大学制度」等を通じた研究大学群の形成
- ✓ 基盤的経費の確保 (運営費交付金の在り方の見直し等)

## ② 技術領域の戦略的重点化

将来にわたって科学技術力を維持・強化するため、限られた政策資源を最大限活用する戦略的な支援を実施。

### □ 重要技術領域の選定と重点支援



### ③ 国家安全保障との有機的連携

- デュアルユース研究開発の推進
- 関係府省間の連携体制の構築
- 経済安全保障に係る技術力の強化
- 研究セキュリティの確保・技術流出防止

### ④ イノベーション・エコシステムの高度化

- 産学連携の推進
- スタートアップ・エコシステムの形成
- 地域イノベーションの推進
- 知財・標準化戦略の推進

### ⑤ 戦略的科学技術外交の推進

- 重要技術領域における同盟・同志国との連携強化
- 新興技術の国際ルール形成
- 国際的な頭脳循環ネットワークの形成  
(在外公館、大学、研究機関の連携強化)
- 科学技術を通じた国際協力の推進

※上記取組に、外交ツールとして、ODA等も活用

### ⑥ 推進体制・ガバナンスの改革

- 政府研究開発投資、官民研究開発投資目標の設定
- 基盤的経費の確保・研究大学のマネジメント改革
- CSTIの司令塔機能の強化  
(重要技術領域の選定 等)